第２回鶴岡市総合計画審議会

平成 25 年 12 月 25 日
東京第一ホテル鶴岡

（人口問題）

・人口問題においては、少子化対策と生産人口対策の二つが大きな問題である。生産人口を確保するには、安定的な雇用が必要であり、少子化対策ももっと強調し、いろんな対策を具体的に大胆にやって欲しい。また、ＵターンやＩターンでやって来る人たちにとっては、本市の幼児教育や小中学校の教育がどのようになっているかも大きな関心事と思われ、グローバル化への対応も含め、今後の教育の在り方も重要な課題である。

（市民力の活用）

・市民のマンパワーをうまく活用していくような具体的な提案が今は必要なのではないか。

（コミュニティ）

・公務員も地域に帰れば地域の住民なので、そこの役割もその地域の中で果たすように頑張って欲しい。
・コミュニティのあり方について、交付金も含め、いろんなところで検討されているが、地域に合った地域コミュニティをどう構築していくかということが重要ではないか。

（地域防災）

・地域力を高めるには、具体的にやれる防災というのは最も手近であり、住民自らが具体的に地域を作るという防災のことをもっと強調してはどうか。

（消防団）

・消防団員ではないが、それに準ずる団員の登録とか、あるいは登録された方々の研修の機会を作っていくということもあっていいのではないか。町内で火災が発生したときに消防署よりも早く初期消火をしたいと感じている人がかなりいるのではないか。

（再生可能エネルギー）

・地球温暖化防止は鶴岡市だけで解決できる問題ではないが、一自治体として取り組めることは強力に進めるべきで、太陽光発電や風力発電の推進なども記載してはどうか。
・温泉の廃熱を農業用ハウスなどに活用してはどうか。

（こみ焼却施設）

・新たなごみ焼却施設の整備について、廃熱を活用した発電機能を備えたものとして欲しい。そうすることで工業団地に電力として供給し、競争力を高めるなど、企業誘致にもつながるのではないか。

（高齢化社会）

・85 歳以上の医療依存度、介護依存度の高い人が増えていくという超高齢化社会の中で、ここ 2、30 年後、どういうふうに高齢化社会を乗り切るかというのが大きなテーマになる。鶴岡に関しては、これから医療の需要が増えるということはないと予測されているので、病院・医療というよりは、介護と福祉と医療との連携による共同体制の構築が求められている（ケア、高齢者のケアマネジメントを充実させていく仕組みづくり）。

（自殺対策）

・東北地方は全国的にも自殺者が多い状況にあるが、「県立こころの医療センター（仮称）」との連携について、もう少し具体的に記載することはできないか。

（認知症対策）

・間違いなく認知症が増えているが、認知症になるような年齢になってから対策を講じるのでは遅く、もっと早めの対応を検討して欲しい。

（放課後子ども教室）

・郊外の放課後子ども教室について、働く親にとって土日や長期休みのときには放課後子ども教室がない、あるいは預かる時間が短いなどの課題もあり、小学校が統合される際に改めて放課後の子どもたちの過ごし方を検討して欲しい。

（学術文化都市）

・「知を活かす学術文化都市」というくだりに、鶴岡市内にある試験場、研究機関というものも加えてはどうか。また、藤島地域の「農業関係機関」という表現は、「高等教育機関や試験研究機関の集積」とし、もっとそれを表面に出してはどうか。

（一貫教育）

・鶴岡市の教育の現在の課題は少子化の中での人材育成をどうするかということ、そして小・中・高・大・企業を巻き込んでの地域としての一貫教育、それをどのように行っていくかということだ。

（特別支援教育）

・特別支援が必要な子どもたちが高校を卒業した後、その働く場所をどのように確保するかが大事である。

（廃校施設の活用）

・小中学校の統廃合により空いた学校施設について、例えばヨーロッパ、アメリカでは教会が地域のシンボルになっているように、日本では学校がその地域の人たちの拠りどころと思われることから、市からの提案を待つのではなく、地域の人たちがその施設をどう活用していくか、いろいろアイディアを出して市に要望するような形にするべきではないか。

（自然のなかでの教育）

・「森林文化都市」の主な施策に「森林のなかでの子どもの育成」とあるが、「森林」と限定しないで、「恵まれた自然」と捉えるべきではないか。同時に「恵まれた自然を学ぶ自然の学習」あるいは「自然を使ったスポーツ」、例えば登山とか、海での水泳、あるいはスキーといったものを教育計画の中にきちんと位置付けてはどうか。

（スポーツ振興）

・東京オリンピックにこの地域から選手を送り出すため、有望視されている水泳競技に支援する観点から、スイミングクラブへの支援をお願いしたい。
・後期基本計画の策定にあたり、現在検討中のスポーツ推進法に基づく市のスポーツ推進計画の内容も加味して欲しい。

（スポーツ施設）

・本市のスポーツ施設は 20 年以上経っているものが多く、今までのような修理では対応が難しくなってきていることから、計画的な修理修繕、あるいは改築等をお願いしたい。

（６次産業化）

・農業の６次産業化の新たな起業のためにも人材の育成が必要で、そのための中心となる、実践実習ができる施設の整備が必要である。例えば酵母菌についても何百種類の酵母があり、それをどう開発し、どう製品化するかなど、農業を基幹産業とする企業起こしをお願いしたい。

（ＴＰＰ問題）

・ＴＰＰ問題について、もう少し鶴岡市でも頑張ってもらって、力を入れてもらいたい。

（農業分野での新たな雇用創出）

・農業は、既存の農業関係者だけではなく、６次産業化など新たにチャレンジできる産業であり、新しい雇用を生み出す可能性もある。この地域の諸々の産業と複合的に組み合わせた新しい農業を営む人材の育成を図って欲しい（例：再生可能エネルギーを活用したもの、他の１次産業と含めたもの、コンピューターを活用したものなど）。

（有害鳥獣対策）

・有害鳥獣対策について、何か新しい作物をやろうとしたときに、非常に大きな障害となっており、狩猟免許のあり方など、山を守ることも含めて、その対応をお願いしたい。

（ふるさと納税と農産品活用）

・ふるさと納税で地元の農産品がもらえる事例もあり、鶴岡にも在来野菜から始まって、非常に多くの農産品があるので、その辺ももっと活用しＰＲしてはどうか。

（森林の活用）

・「山が荒れると国土が荒れる、海が荒れる」と昔から言われているが、鶴岡市では公共建築物への鶴岡産材の活用や木質バイオマス発電などを推進していただいており、今後も森林の活用を進めて欲しい。

（山林火災対策）

・本市の東北一広い山林において火災が発生した場合、恐らく今の消防体制では対応できないと思われることから、山林火災防御訓練等について検討して欲しい。

（魚介類のＰＲ等）

・「新鮮な魚介類のＰＲとブランド化」という施策もあるが、活カニが大変人気を博しており、また鼠ヶ関の大漁旗祭りとか、お魚夕市のようなものも大変好評なので、これからも継続して欲しい。

（全国豊かな海づくり大会）

・「全国豊かな海づくり大会」について、その場限りの大会にせずに、その後の水産業のみならず、農業の振興や観光の振興に結びつくような大会となるように、鶴岡市の総力を挙げて尽力して欲しい。

（子どもの魚離れ）

・子どもの魚離れの問題について、学校給食などでも力を入れて取り組んで欲しい。

（水産加工支援）

・現在、鶴岡市庄内浜うめぇ魚産地協議会の協力を得て開発した乾燥甘エビが大変好評であり、いいブランド品になると期待しているが、加工品にする機械が足りないことから支援をお願いしたい。

（水産物の提供）

・「安全安心な水産物の提供」という表現は、逆に中には安全でないものがあると取られる可能性もあるので、「新鮮な水産物の提供」としてはどうか。

（雇用対策）

・地元に定着する、地元に回帰するためには、まず大学に行って戻ってこられる雇用の場を作ることが必要であり、雇用の拡大、それから農林水産業の６次産業化を学べるような学校を作る必要があるのではないか。

（地域内連携）

・鶴岡高専と地元企業の関係について、お互いに情報交換が足りないと感じており、庄内地域全体の活性化のためにも横の連携をもう少し図る必要がある。

（企業戦略）

・企業は、外から人を呼べるような何か特徴的技術を持つことが必要ではないか。

（観光振興）

・観光振興のためには、交流人口の増加が最大の課題で、そのことはまちの活性化にも繋がることから、全市民挙げて鶴岡観光という立場で推進する必要があるのではないか。
・全体的な観光資源の発掘につなげるため、本市の郷土芸能や指定文化財の更なる発展を考えて欲しい。
・鶴岡は解体ブームという声も聞くが、致道博物館の旧鶴岡警察署もいよいよ解体して、５年後に修復完了となる予定で、これからも事業への協力をお願いしたい。
・多くの文化施設が右肩下がりとなる中、来年のデスティネーションキャンペーンは非常にいい機会であり、鶴岡の魅力をそこで十分に発信する必要がある。

（地域振興策）

・羽黒地域の観光振興について、豊富な観光資源を民間、あるいは自営業の人たちがうまくＰＲできるように、そういう人材育成を図る必要がある（市民協働で進める羽黒の観光）。
・日沿道の開通に向けて、温海地域の振興を図るためにも、鼠ヶ関のサービスエリア、インターチェンジの整備促進を図って欲しい。

（後期基本計画）

・若者世代が即行動できるような施策を打ち出して欲しい。

・後期基本計画は５年間の計画期間であるが、中間検証という意味でも、どのような取組みをして、そこで検証してその後どういうふうに変えていくのかということも必要ではないか。

（計画の推進）

・計画を実現するため、「計画の推進のために」という部分をしっかり作って欲しい。

（鶴岡ルネサンス宣言）

・鶴岡ルネサンス宣言に基づくまちづくりの整理を具体的、かつ重点事項はどれかということが市民の皆さんに分かるようなまとめ方をして欲しい。

（庁舎機能）

・合併して東北一広い地域になったということで、それぞれの地域の特徴をどう活かすかと考えたときに、元気のある庁舎のあり方を是非検討して欲しい。

（組織内連携）

・縦割行政ではなく各部署が連携・統制をとれる仕組みを作っていかないと、本当の効果を出せないこともあるので、そうした組織体制の構築をお願いしたい。

（職員の資質向上）

・職員の資質向上について、市職員はほぼ全てに渡ってまちづくり、まちおこしのプロであり、その力を上げていければ、どんなすごいことになるかと思うので、ここに力を入れて欲しい。